

今回は大学の課題でときどき起きるつまずきについて取り上げてみましょう。それは一言で言えば、「自分の考えを書く」というタイプの課題が難しいということです。大学に入ると、このような課題が増えてきます。これは自信のなさや経験不足という問題の場合もありますが、発達障害の特徴の一つという場合もあります。

自由記述という壁

大まかに言えば、高校までは授業で習ったことを答えられれば合格できる課題が多かったと思います。大学でもその手の課題は多いですが、一方で、「毎回の授業の感想を書く」、「自分の考えを述べる」、「あるテーマについて考察する」といったような、自由記述式の課題も増えてくるのではないのでしょうか。この手の課題は授業で習ったことをそのまま当てはめれば答えが出るわけではなく、唯一の正解が決まっているわけでもありません。その最たるものは卒業研究です。4年生になるまで問題なく成績が取れていたのに、卒研が始まったとたんに取り組み方がわからず、つまずいてしまったというようなお話しは毎年聞こえてきます。もちろん、卒研に至る前に、自由記述の壁にぶち当たることもあります。



自信のなさか、「自分の考え」がわからないのか

自由記述の壁にぶつかる要因について考えてみると、本当は自分の考えがなくはないのだけど、自信がなかったり、文章表現の経験が乏しかったりして書けないという場合があるでしょう。この場合は、場数を踏むことで次第に書けるようになるかもしれません。

それとは別に、そもそも「自分の考え」と呼ばれるものが何を指すのか感覚的にわからないことがあります。この場合、勉強はできるのに、「君の考えを書いて」と言われると途端に何を書いていいかわからなくなるといったギャップが目立ったりします。遡ると、小中学生の頃も、成績は良いのに読書感想文だけは全く書けなかったということが思い出されたりします。こういうときは、発達障害の特性の現われという可能性もありますから、無理に練習するより、その特性を理解してもらうことが必要かもしれません。

